



2018. 9. 28 (金)
17:30 - 19:00

場所：京都市立芸術大学芸術資源研究センター / 参加無料・申込不要

講師 甲斐賢治・北野央・佐藤知久

「3がつ11にちをわすれないためにセンター (わすれん!)」は、せんだいメディアテークが2011年に開設した、市民・専門家・メディアテークスタッフの協働による、東日本大震災とその復興のプロセスを、独自に発信・記録するためのプラットフォームです。

個人による災害の記録は、近年 twitter などでも注目されています。けれども、こうした記録がメディアに利用されるだけでなく、つぎの災害にまで届く「声」になるためには、工夫が必要です。

この本では、「個別的で微細な手ざわりをもつ出来事を、さまざまな技術と道具をつかって、自分たちで記録し共有する」ための活動を、コミュニティ・アーカイブと呼んでいます。本書には、わすれん!に蓄積された、コミュニティ・アーカイブづくりのノウハウと成果、これからの課題をまとめました。

トークイベントでは、本書の背景と内容、そこに書ききれなかったことを紹介するとともに、本書刊行後に著者3人が続けているそれぞれの活動について、社会活動とアート、建築と展示とデザイン、記録とアーカイブと人類学など、さまざまなトピックについてお話しします。

甲斐 賢治 1963年大阪府生まれ。せんだいメディアテーク アーティスティック・ディレクター。
[remo] 記録と表現とメディアのための組織や、[recip] 地域文化に関する情報とプロジェクトなどを通じて、社会活動としてのアートに取り組んでいる。

北野 央 1980年北海道生まれ。公益財団法人仙台市市民文化事業団 主事。2011年からせん
だいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を担当、「レコー
ディング イン プロGRESS」(2015)「震災と暮らし」(2016)などの展覧会を行う。

佐藤 知久 京都市立芸術大学芸術資源研究センター専任研究員/准教授。

コミュニティ・アーカイブをつくらう!
せんだいメディアテーク
「3がつ11にちをわすれないためにセンター」奮闘記